



じんけん通信

令和7年(2025年)8月(第208号)

今年の8月15日で、終戦80年の節目を迎えます。

二度の世界大戦中には、多くの尊い命が失われるとともに、特定の人種への迫害や虐殺など、重大な人権侵害が横行しました。その後、国際社会では、人権の保障が平和の基礎であり、戦争は最大の人権侵害であるとの考え方が主流になりましたが、今もなお、人びとの生命、健やかな精神、穏やかな生活といったかけがえのないものが戦争によって奪われることが繰り返されています。

このような現状であるからこそ、過去の戦争の記憶を共有、継承し、得られた学びを活かしていくことが重要です。

そこで今回は、滋賀県平和祈念館で、企画展『記憶の中の戦場・中国』を担当されている日高さんと、『平和祈念 week2025』を担当されている村田さんに、平和の大切さ、そして命や人権の大切さを伝えていくための取組や工夫について伺いました。

特集 戦争と平和

～誰もが尊重される未来を目指して～

◎日高さん(企画展『記憶の中の戦場・中国』担当)へのインタビュー

Q. 戦争の記憶を共有・継承するために、どのような取組をされていますか。

私たち調査に携わる者が戦争を経験された方や関係者からお話を伺って記録し、また戦争にまつわる品物の収集を行っています。そして、それらを展示や平和学習で使用し、県民の皆さんへ共有・継承しています。私たち自身も語り継ぎ手という役割を担っていると考えています。

Q. 戦争を経験された方との繋がりは、どのように持たれていますか。

以前までは来館された戦争経験者の方にお話を伺っていました。しかし、近年、高齢化のため、戦争経験者が来館されることが少なくなっています。このため、最近では新聞記事等で紹介された方へお声掛けするほか、来館された方や地域の方から情報を集めて、こちらから戦争経験者の方へアプローチすることが増えており、地域との繋がりがさらに重要となってきています。

Q. 今年は戦後 80 年の節目の年ですが、企画展示のテーマを『記憶の中の戦場・中国』とした理由は何ですか。

日本が近代化していくなかで、中国に進出し衝突しました。特に日中戦争に入ると全面戦争となり、長い期間にわたって戦闘が行われたことから、滋賀県民も非常にたくさんの方が兵士として戦場に派遣されました。このような背景もあり、当館が収集した多くの体験等を通して、広く県民の皆様を知っていただきたいとの思いから今回のテーマとして取り上げました。

また、今回の企画展示の副題を『滋賀県出身の兵士が見た戦場と平和の灯(ともしび)』としていますとおり、戦場での記録だけでなく、滋賀県と湖南省との友好関係を軸に平和への歩みも紹介しています。

戦争当時だけではなく、その後の関係性にも注目して取り上げていることが今回の企画の特徴的な部分ですね。

戦争と平和への歩みを取り上げることで、現代の国際紛争を考えるきっかけになればと考えています。特に平和学習などで多くの子どもたちが来館されるので、子どもたちが戦争と平和について考えるきっかけとなるように、体験談だけではなく、実物、写真、地図など目で見てわかるような資料を多く展示するように工夫しています。

Q. 子どもたちを意識してということですが、今回の展示等を子どもたちにどう活かして欲しいと考えていますか。

展示や体験談について、何でも良いので気になったものや感じたことを家族や友人に伝えて欲しいと考えています。また、歳を重ねるにつれて考え方も変わるのでしょうから、ここに来られた1回ですべてを学ぼうと思わなくてよいです。今後、戦争に関するコンテンツに色々触れていくなかで、ここでの記憶とともに学びを積み重ねていただきたいと思います。



↑戦場に行った兵士がやり取りした手紙など実物の持ち物の展示です。

Q. 戦争を経験された方が少なくなるなか、継承に向けて今後どのようなことを行いたいと考えていますか。

できる限り、戦争体験談の聞き取りを行い、関連資料を集めていきます。資料の収集が今後ますます難しくなりますので、博物館や図書館で公開されているデータを活用するとともに、私たちが収集した資料を改めて整理し、理解をより深める、

例えば、この方とこの方は同じ戦場を経験されていたのだとか、個々の資料を繋げるようなことができると考えています。

◎村田さん(『平和祈念 week2025』担当)へのインタビュー

Q. 今回の企画について、これまでと違う点はどこですか。

今回は『未来へつなぐ』ということ意識した企画としており、これからを担う若い方々による発表会や戦争遺跡/戦争証言動画の上映会などの催しを予定しています。

発表会については、この3月まで大学生だった方が卒業研究で平和祈念館について研究いただいたことから、その成果について発表していただきます。また、県内の中学3年生が、特攻隊の基地があった鹿児島県知覧市に平和学習に行かれことから、その学習成果を発表していただくことも予定しており、若い方が何を学び、考えたのかを知る機会としています。

続いて、戦争遺跡/戦争証言動画の上映会については、戦争遺跡や戦争証言をまとめた新しい動画が今年の3月に完成しましたので、それらの上映を行います。また、今回の動画はNHKエンタープライズの方に制作いただいておりますが、この制作者の方から「映像でつなぐ戦争体験と平和」というテーマで動画上映会の後にお話しいただくことを予定しています。

その他には、戦後80年特別企画として、昨年公開された映画『オープンハイマー』を上映する予定のほか、普段は学校や団体向けに実施している、焼夷弾などの実物資料に触れながら戦時中の滋賀県を学ぶ平和学習を一般の来館者の方も体験できる企画を予定しています。



↑ 祈念館で展示されている実物の背囊、防空頭巾です。

Q. 今回の企画で来館される方に学んでもらいたいことを教えてください。

若い方が学ばれ、感じたことについての発表をとおして、これから先を担っていく若い方たちと未来の平和をどのように築いていくかを共に考えるきっかけとしてもらえればと考えています。

また、その他「見る・聞く・食べる(※)・感じる」などさまざまな体験をとおして戦争と平和について考え、学んでいただきたいと思います。

今年は戦後80年という節目の年ではありますが、過去のことで終わるのではなく、今がどうなっているのかを知っていただき、この先どうすれば平和な世界になるのかを考えていただけるような、今回の企画が来館された方にとって過去を知って未来へつなぐきっかけになればと考えています。

(※)平和祈念 weekの中で、戦時食を食べる体験行事も行われています。

◎日高さん、村田さんありがとうございました。

戦争を過去の悲惨な出来事とだけ捉えるのではなく、戦争の記憶の共有・継承をと
おして現在と未来がより良くなるにはどうすればよいかを考えていくことが大切だ
ということが大変良く分かりました。

平和祈念館では、企画展示以外にも多くの常設展示があり、滋賀県に生まれ、暮ら
していた人々が、戦争という時代にどのように巻き込まれ、暮らしていたのかがとて
も良く分かります。

ぜひこの機会に平和祈念館を訪れていただき、過去の戦争を知っていただくこと
ともに、誰の人権も侵害することなく、また侵害されることなく、それぞれが尊重され
る未来を考えるきっかけとしていただければと思います。

～平和・人権の保障は世界の人々の願い(世界人権宣言)～

20 世紀における二度の世界大戦により、多くの人々の尊い命が奪われるとともに、
さまざまな人権侵害も起こりました。その反省に立ち、世界中のすべての人が幸せに暮
らせる社会の実現を願い、昭和 23 年(1948 年)12 月 10 日、国際連合総会で、「世
界人権宣言」が採択されました。

「世界人権宣言」は、全世界に通用する基本的人権尊重の原則が定められており、世
界各国の憲法や法律にも取り入れられています。

◆今回お伺いしました、滋賀県平和祈念館の概要はこちら！

所在地 東近江市下中野町 431 番地
開館時間 9時 30 分～17 時 00 分(入館は、16 時 30 分まで)
休館日 月曜日・火曜日(祝日にあたる場合は開館)
(7/16(水)～8/24(日)の間は休館日はありません。)
年未年始(12 月 28 日～1 月 4 日)
その他、業務の都合により休館する場合があります。
入館料 無料
電話番号 0749-46-0300
E-mail heiwa@pref.shiga.lg.jp
アクセス ●名神高速道路「八日市 IC」から車で約 10 分
(無料の駐車場があります。)
●JR 琵琶湖線彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市
駅からバスで約 20 分「愛東支所・診療所前」下車すぐ
施設HP <https://www.pref.shiga.lg.jp/heiwamuseum/>





ジンケンダーのちょっと一言



平和について考え、
人権の大切さを
知って欲しいのー！